

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	岐阜県可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	平成31年2月7日	評価結果市町村受理日	平成31年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JievosvoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JievosvoCd=2193100167-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成31年3月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事やレク活動にボランティアの方に参加していただき交流を持つことで、随時外部の方と接する機会を設け社会性の維持に配慮しています。地域の方との交流を大切に、外出の機会を多く設け利用者の方が生き生きと和やかな生活ができるように支援しています。また、日常の生活リズムを大切にしながら四季を感じてもらえる工夫をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成30年4月に開設した新しいグループホームである。静かな住宅街に位置し、敷地内にある同法人の地域密着型特別養護老人ホームと共に、地域福祉の拠点として役割を担っている。ホームは介護支援の場だけでなく、共同生活をする「家」として、室内の清掃は利用者と共に、本人が出来ることを見守りながら、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう支援している。また、管理者は、職員の資格取得を支援し、勤務時間やシフトの希望を聞き、働きやすい職場環境作りに努めている。職員同士は、互いに思いやりの気持ちをもって、利用者へのより良いケアを実践できるよう取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議時に事業所理念の確認を行ったり、事務所、休憩室に理念を掲げ情報の共有を行い意識づけております。	理念は職員に浸透しており、いつでもどこに聞かれても説明できるよう、常に意識して業務に臨んでいる。利用者を人生の先輩として尊敬し、信頼関係を築きながら、住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、理念に沿って支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の方が、施設の近くを散歩し、地域の方とお話をしたり、近所の方が、野菜などの差し入れをしてくださり地域の方との交流を図っている。また近くの保育園・小学生との交流会(ゲーム・歌など)も行い地域の方とのふれあいを大事にしている。	併設する特別養護老人ホームの利用者と共に、地域住民との交流を大切にしている。アニマルセラピーや大正琴演奏など、地域ボランティアの訪問があり交流している。また、花壇づくりでも、ボランティアの力に支えられ、近隣住民からは野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや、近隣の方、また会議にて地域の方に理解を深めていただけよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況、取り組み等の詳しい内容を報告し、意見や助言をいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議には市の担当者や自治会長、民生委員、地域の役員等が出席し、様々な意見が出され、事業所の運営改善に繋げている。家族代表からの介護保険制度に関する質問には、行政の協力を得ながらわかりやすく回答している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方とは、日頃から連絡を取り、相談、助言を受け、関係を築いている。	市の担当者とは気軽に相談することができ、意見交換しながら、運営推進会議でも、様々なアドバイスを受けている。市が主催するケア会議やグループホーム会議、研修等にも積極的に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、研修した内容を職員間で注意しあっている。また何気ない言葉で利用者様が気づくこともあり、利用者様の気持ちに寄り添う必要がある。	身体拘束等廃止委員会があり、ヒヤリハット事例や事故について話し合っている。管理者は、何気ない職員の言葉や行動が、拘束に繋がることのないよう、些細なことでも気になったことは報告するよう徹底させ、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回、回覧研修で高齢者虐待防止法を勉強し一人ずつ感想を記入しております。ヒヤリハット報告書をスタッフが共有し虐待防止に努めております。		

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回、回覧研修で勉強を行い、一人ずつ感想を記入しております。日常生活自立支援と成年後見制度の違いを一覧にして、分かりやすいようにまとめてあります。ご家族様に直ぐに説明できるように資料を用意してあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様にご不明な点はないか確認して納得していただき契約していただいている。また、利用後起こりうるリスクに関してなど説明し、ご家族様の理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に面会時や電話やメールで状況報告を行い意向を確認し介護計画や施設の体制に取り入れております。利用者様の要望に応じれるようにご家族様にも協力を得てサービスの向上に反映させております。	利用者には日々の暮らしの中で要望を聞いている。家族には、利用者の日常の様子や食事の内容を写真で提供するなど工夫し、面会時や電話、行事の際に意見や要望を聞いている。出された意見は職員で共有し、検討しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い、職員からの意見や提案を聞き、業務に反映している。また、会議以外でも話をして意見が言いやすい環境を作っている。	職員は、事業所内の危険個所の確認を行い、率先して改善に向けた意見を出している。また、利用者との関わりの時間を増やすための提案、勤務調整や福利厚生について等を話し合いながら、管理者層と現場職員が共に運営改善に取り組んでいる。	今後、職員の増員・入れ替えがあった場合にも、風通しの良い雰囲気、気軽に意見を言い合えるチーム作りに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようにアットホームな雰囲気、笑顔で笑顔を絶やさない職場作りに努めている。職員の面談も行っている。介護福祉士等の資格、また日々の努力や実績に応じて、正職員への起用に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の状況に応じて研修への参加を促したり、資格取得の為にサポートをしている。勉強会を行い参加できなかった職員にも回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可児市グループホームの交流会に参加し、情報交換に努めている。情報は現場での支援につなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様に会話の中でさり気無く要望を伺い、利用者様の要望をご家族様にお伝えし、ご理解ご協力を頂き利用者様の気持ちを大切にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前からご家族様と連絡をとり、入所時に不安ないように家族の思いを確認し、説明しております。契約時にご家族様に今後の意向を確認し要望を取り入れられるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様に要望を伺い、必要に応じて主治医に相談して安心した生活が送れるように支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者様の残存能力に配慮しながら、お手伝いさせて頂く思いで、一緒に会話を楽しみながら家事や利用者様の意向に沿うように関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画の中に面会について取り入れ、ご家族様にご理解ご協力を得て、疎遠にならないように関係を築いていただいております。面会がない時は来所して頂けるようにご家族様に連絡しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや誕生日や個人の外出の際に、馴染みの場所へ行って頂き、関係が途切れないように支援しております。ご自宅で馴染みの方と過ごしたり、入所時は馴染みの方が面会に来て下さった事もあります。	家族や友人の来訪時には、気兼ねなくゆつくりと過ごせるように配慮している。職員と共に、馴染みの場所へドライブを兼ねて出かけることもある。また、家族の協力を得て一時帰宅や一時外泊し、馴染みの人と過ごす利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格をスタッフが把握して、楽しく過ごせるように配慮しています。孤独感を感じないように、スタッフが全利用者様に平等に声掛けしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所時にはホームでの生活が継続するように看護・介護サマリーを病院に情報提供しております。退所したご家族様から連絡やホームに顔を出して頂けている関係を築いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用しながらニーズを把握するように努めています。また、状況や表情から思いや意向をくみ取り支援しております。	日頃の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いを把握するよう努め、介護記録や申し送りノートに記録し、職員間で共有している。家族からも情報を得て、個々の思いに寄り添いながら、その人らしい暮らし方ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートや保証人様やご本人様からの聞き取り等からニーズを把握するように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じて生活が出来るように、ケース記録や個人申し送りを活用して状況把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月21日の職員会議にて利用者様個々の状況・状態確認したり、面会や電話で保証人様と話し、見直しを行い介護計画を作成しております。	利用者と家族の思いや要望を踏まえ、職員で話し合いながら介護計画を作成している。介護計画と介護記録が連動した書式となっており、計画に沿った支援ができているかどうかのモニタリングを行いながら、次の支援計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフとのコミュニケーションやケース記録や個人申し送りを用いて、申し送りや毎月の会議で情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時や申し送りやケース記録で状況を把握し、毎月のスタッフ会議やご家族様と相談して支援方法について話し合っております。		

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所時に地域資源を確認しておりますが、なかなか多様な地域資源を活用させる事が難しいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に希望のかかりつけ医を確認し緊急時は希望の病院に搬送して頂けるように看護職に伝え情報共有しております。専門医の受診が必要な時はご家族様にご相談しております。	契約時に、本人・家族希望の主治医を選択できることを説明し、かかりつけ医の適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時の搬送先も事前に家族の意向を確認して対応している。専門医への受診は家族の協力を得て行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定の結果を看護職に伝え、必要時は看護職に再測定して頂いております。日々の気づきを大切に、変化が見られた時は直ぐに看護職に報告・相談して主治医に連絡する体制を築いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に看護・介護サマリーを医療機関に渡し情報共有し、入院中もご家族様に容態を伺ったり、面会に伺わせていただいております。早期退院できるように医療関係者・ご家族様と連携をとって支援しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様の意向を確認しております。状況に応じ、その都度ご家族様の意向を確認し看護職に情報共有しております。医療行為が必要な場合看護職と相談し対応させて頂いております。	契約時に、重度化や終末期の方針について説明している。利用者の状況に変化があった場合、家族や医師、関係者で話し合い、支援方針を決めている。法人内の看護師とも連携し、可能な限り利用者の意向に沿った対応に努めている。	利用者の重度化や終末期の支援の在り方について、定期的に学ぶ機会を設け、職員の更なるレベルアップに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しスタッフで情報を共有しております。救急隊員による急変時の対応方法・AEDの使い方の研修を受けて習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の非常口を全スタッフが周知し、年に2回避難訓練を行っております。災害時を想定した食事作り・提供をし利用者様に説明・協力を得ております。備蓄品を用意しローリングストック法を活用しております。	避難訓練は併設する特別養護老人ホームと合同開催している。利用者も訓練に参加することで、気が付かなかった課題点を確認し、改善策を検討している。災害時において、地域の自治会長には連絡がとれる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の尊重をし、失礼のない声掛けと対応を行っております。必要時は現場で直ぐに話し合い情報を申し送りに記入し全スタッフで丁寧で迅速な対応を心掛けております。	職員は、利用者に対して常に尊敬の念を持って接し、言葉遣いや声のトーンにも配慮している。個人情報保護については取り扱いを徹底し、記録を書く際も、人目に触れない場所で行うようにしている。浴室には、羞恥心やプライバシーに配慮し、衝立を置いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設の都合で利用者様全員で一緒にの事を行うのではなく、個々の利用者様に希望を伺い自己決定して頂いております。他にやりたい事がある時は、個々の希望を優先して頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が一緒に生活ペースではなく、利用者様個々の生活ペースを大切に、やりたい事や動きを見守りしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には個々の好きな服を選んで着て頂いております。毎朝ご自分の櫛や化粧水や化粧道具を使用し、入浴後のボディークリームを使用して身だしなみやオシャレをして気持ちよく過ごして頂けるように心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様の好き嫌いを掲示し、好みに合わせた料理と食事形態で提供させて頂いております。料理の下ごしらえや、下膳、食後の食器拭きなどスタッフと一緒にしています。	利用者の好みや、状態に合わせた食事形態を把握し、個々に対応している。下ごしらえや片付けなど、できることは職員と一緒にこなしている。食事の時間は決まっているが、職員は極力手を出さず、自分のペースで食べられるよう見守りながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を毎日記録して水分不足にならないように努めています。毎月1日に体重測定を行い、看護師、管理栄養、管理者と相談しながら食事提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の歯ブラシ・歯磨き粉を使用して口腔ケアして頂いております。痛くないように保証人様と相談してスポンジブラシ使用の方もみえます。義歯使用の方は毎晩義歯洗浄を行い、毎月1回は歯ブラシ・コップを消毒しております。		

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方は、オムツ使用ではなくトイレやポータブルトイレで排泄できるように一人一人に合った介助をするように心がけております。排泄表を参考にしながら排泄誘導しております。	排泄の自立ができて利用者が多く、オムツは極力使わずに、パッドを併用して自立の継続を支援している。夜間は、一人ひとりの状態に合わせて、声かけと誘導を行っている。安全の為、ポータブルトイレを利用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所された時に排便状況の確認を行い、日々排泄チェック表で排便の確認を行い、看護師に報告しております。毎朝の乳飲料の提供や牛乳・野菜を多く摂取して頂き、運動等を取り入れ自然排便が促されるように取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回、入浴の意向を伺い1人1人の生活習慣や体調に合わせて入浴をして頂いております。入浴したくない時は、時間が経ってから再び声掛けしたり他の日に入浴支援させて頂いております。	週2回、午前入浴を基本としているが、体調や気分に合わせて、曜日や時間帯を変えて対応している。浴槽が深く、ゆったりと浸かることができる反面、浴槽をまたぐ際に介助が必要となる場合もあるが、安全には十分注意して支援している。	現在の入浴回数は、週2回を基本としているが、利用者・家族の希望により、週3回の入浴を検討中である。要望に応えられるよう、入浴支援の体制作りを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの生活習慣を大切に、身体状況に配慮しながら支援しております。良眠できるように、パジャマに着替え・室内温度に気を付けております。眠れない方はスタッフと過ごし気分転換してから、安心して眠れるように応じております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのスタッフも直ぐに情報確認できるように個人ファイルに薬情報を入れ服薬管理場所付近に、服薬状況が貼ってあります。薬の副作用や過剰摂取について看護師に相談し主治医の指示に従って対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好きな事や得意な事をスタッフが情報共有して、プランに沿った役割をして頂いております。暖かい時期は、外へ散歩に行き気分転換できるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせ、自宅や商業施設、お墓詣りや神社、地域の催しに参加する等、ご家族様と連絡を密にとり、行きたい場所に行けるように支援しております。	利用者は、職員と一緒に周辺を散歩しながら、近隣住民とのコミュニケーションを楽しんでいる。利用者の希望を聞き、ドライブや買い物に出かけたり、季節に合わせた行事を企画し、外出支援を行っている。家族の協力を得て、自宅や墓参り、知人に会いにいく利用者もある。	

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物に行く時は、ご本人様の使い慣れた財布を持って買い物に行きます。冬の時期は感染防止の為、一緒に買い物には行っておりません。今後も個々の希望を伺い支援させて頂きたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの要望がある方は、電話が聞き取りにくい為、管理者が連絡しております。暑中見舞いや年賀状を書いて頂き送っております。ご家族様から郵送でお手紙が届いた方もみえました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、皆様に気持ちよく過ごして頂けるように1日4回の掃除を行っております。カーテンや加湿器を使用し室内温度の調節や、掲示物で季節感を取り入れ工夫を行っております。	共用スペースは掃除が行き届き、清潔感がある。利用者が安全に歩行、移動しやすいよう、通路には妨げになる物を置かないよう工夫している。一人用の椅子やソファを置き、利用者が好きな場所で寛ぐことができる。壁には、利用者や職員の季節の共同作品を飾り、明るく家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子に座って過ごすだけではなく、ソファに座って頂いたり、利用者様の相性に配慮しながら共有空間やドライブに行っておいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた見慣れた物を持参して頂き、ご家族様の写真を掲示し安心した居室作りに努めております。ホームでの日常の写真を掲示し面会時ご家族様との話題作りで面会時に退屈しないように工夫しております。	居室には、ベッド、整理ダンス、広いクローゼットがあり、整理整頓されている。自分で身なりを整えられるよう、鏡やブラシ、化粧品などを持ち込み、これまでの生活習慣を継続している人もある。家族や担当者との写真、花や手作り作品を飾り、自分らしく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の全体の手すりや、場所や居室に名前を掲示を行い自立した生活が送れるように工夫しております。毎月一人一枚ヒヤリハット報告書を記入して危機管理の意識を高めております。		